

平成23年度山形県科学技術会議 委員発言概要

日 時 平成23年5月27日(金)13:45～15:45

場 所 山形県自治会館401号室

出席委員 赤塚会長、板垣委員、河野委員、林委員、本田委員、吉田委員

1 科学技術政策大綱関係（重点推進方策除く）について

（会長）

前回の大会を策定してから、しばらく経過したので見直しの必要性等についてご意見を伺いたい。

（事務局）

大綱の検証・見直しについて、資料をもとに説明

（委員）

研究は実用化が重要。研究マネジメントできるコーディネーターや実用化を意識した研究者が求められる。新しい価値を生み出せる人材が必要。

（会長）

社会的なニーズと研究のシーズとの整合から実用化が進むことが望ましい。ニーズを踏まえて研究シーズが出てくるような環境整備が必要。

（委員）

原発の事故等を見ると常識にとらわれない発想を持った研究者が必要。科学技術の信頼が崩れてきており、新たに信頼を得られるような科学者、研究者を県内から生み出してほしい。

（会長）

都合のいい方向に解釈するだけでなく、たくましい想像力と対応力、新しい発想を持った人物、観点が重要。

（委員）

原発に想定外はあってはならない。大綱は何を見ても「推進します。」「目指します。」とあり、全てなるほどと思うが、計画に予算の記述が無いので判断材料に乏しい。基礎研究は民間企業では弱いので公共機関に依存しており、予算をキープすべき。

（委員）

山形県では風力、太陽、バイオマスの発電が進んでいると報じられている。全国に先駆けての取り組みは評価できる。山形の技術をもっと全国に発信してほしい。

(委員)

原発問題では情報発信が弱く不信感の増大につながった。また、国の計画では2020年までに女性研究者の比率を30%にするという数値目標が掲げられている。

(会長)

「新しい『モノ』を生み出す」から「新しい『価値』を生み出す」こと、「持続可能な社会」、「クリーンな科学技術」が求められている。

(委員)

学校教育・社会教育による人材育成、専門分野に特化した人材育成から一貫した人材育成が必要となる。

(委員)

今回の見直し案に、「推進します」、「促進します」とあるが、どこまでやれば推進したと言えるのか評価できない。

(会長)

大綱はビジョン。具体策や詳細は重点推進方策に書き込まれることになる。

(委員)

いろいろな方が見て理解できる内容にすべき。簡単な表現、見える表現に。

(会長)

解りやすく書くというのは大事なこと。今回の見直しの一つのポイント。

(委員)

現行の大綱の理念はなくてもいいのではないか。中味全体を表すのか、何をあらわすのかがよく分からない。

(委員)

科学技術関連の施策、事業の結果等について一般の方々が目を通す機会はあるのか。

(事務局)

県の試験研究については、事前に外部の評価を受けており、研究が終了した後も事後評価を行っている。研究の評価結果等については、県のホームページに掲載している。

(会長)

「協創」に関連して、自分の分野に閉じこもるのではなく異分野の人たちと協働して新しいものの創出に努めることが大切。

他に意見が無ければ、大綱を整理し見直したほうが良いのではないかと、ということで進めたい。

2 重点推進方策関係

(事務局)

重点推進方策の見直しについて、資料を基に説明

(委員)

国の第4期基本計画の人材の項目に女性研究者数の目標が入っているが、案には若手研究者数しか入っていない。女性研究者の目標も重点推進方策に盛り込んでどうか。

(委員)

新学習指導要領や親子科学教室に関連して最先端の科学技術に触れる機会の拡充とある。環境は人間を作る、触れる機会は重要なこと。

高等教育機関の出前授業や理科の授業に大学を活用しており、また科学クラブの部活動の一環として博物館や産業科学館も利用している。やはりきっかけが必要である。

科学の祭典や科学教室等で子どもは科学への興味を高める。点をきっかけとして線となる機会を作ることが重要で、一度きりでなく、子どもが現象に出会える場が必要。

(委員)

学生を様々な場に出向かせ、県内のニーズ等を知ってもらう場が必要。芸術関係の大学生の動きは見えるが、他はあまり見えない。学生がどう関係するか、県で目標を立てると学生も頑張る。

(会長)

場の提供は重要。

(委員)

生産拠点の分割等、県内の技術力を活かして次世代の産業につなげることが必要。中小企業が重要な役割を果たすことを盛り込むべきである。

(委員)

人材育成、科学教育へ力を入れることが重要。理科離れ、科学離れと言われるが、自分のことを振り返ると、小・中学校の担任の影響が大きい。科学に限らず、先生との出会いが子供たちに大きな影響を与える。どの分野にも「好きで、熱意のある先生」が求められる。

教員ではないが、知人に星空を教えることが得意な方がいる。学校等で話をする機会を作ることにはできないものか。

(委員)

産学官連携を行っている Party21 はどんな活動を行っているのか。

(事務局)

情報交換の場として活用されている。事務局は山形大学にあり、2か月に1回程度、会合の場を設けており 10 数名程度が参加している。過去には研究会も実施。

(委員)

前回、短期実用性重視の研究を中心にすべきとの提案があった。民間であればそうだが、公的研究機関は、実用性だけに目を取らわれず基礎研究の予算も確保すべき。

(会長)

後にいい実用化につながる基礎研究も少なくない。実用的研究・基礎研究の比率について、限られた予算の中で最良の判断が求められる。

(委員)

地域イノベーションクラスターは用語的に奇異に感じる。イノベーションとクラスターは違うものである。

(委員)

人材育成に時間をかけても県外へ出る人も多い。引き止める方策や世界の人材を呼び込む方法も必要ではないか。

(事務局)

大学の役割が重要。県内には世界の人材を呼んでいるところや世界一の研究者が来ている研究所もある。大学の卒業生を引き止めるには、技術者を必要とする職場が必要。また、自動車関連産業で東北が国際競争に勝抜くために次世代自動車の研究も進めている。

(会長)

外に出てしまうことを嫌うだけではなく、交流の活性化を期待すべき。このためにも、外に出て行った人材を戻す方策、受け入れにどういう場を作るかについて検討すべき。

他になければ、これまでの意見を取入れ、再度まとめを行う。